

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176100147		
法人名	株式会社 美唄環境センター		
事業所名	グループホーム「アルメリア」東ユニット		
所在地	北海道美唄市東5条南4丁目3番9号		
自己評価作成日	平成26年8月28日	評価結果市町村受理日	平成26年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0176100147-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成26年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設11年目、創設時の願い想いを風化させる事無くアルメリアの花言葉「思いやり」はグループホームアルメリア職員一同が噛みしめ「おもいやり」の心を引き続き大切にしてまいります。

緑豊かな美唄市民のオアシス「遊縁通り公園」に面したロケーションは一番のお勧めです。建物も採光に配慮し、穏やかな安心感を醸し出すアルメリアは移り変わる四季を楽しむかのようです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「アルメリア」は、平成15年美唄市の高齢者福祉施策に应运て開設し、11年が経過した事業所である。平屋造りの建物は、中央に広く開放的なロビーを有している。ロビーでは、ラジオ体操やレクリエーション、演奏会やクリスマス会など各種行事が行われ、また、友人や知人との歓談の場所として多目的に活用されている。また、災害時にも有効な設えになっており、緊急時の避難場所に活用できる空間であり、玄関も含めて5ヶ所の避難口にスロープが設置されている。各ユニットの共用空間や居室もゆったりとして清潔感がある。職員は利用者の思いや希望、身体状況に配慮し、気づく力を磨きながら利用者に寄り添う事を大切にしている。歩行訓練や歌唱、食事の準備や編み物と、できる事やしたい事を支援しながら、穏やかな暮らしを提供している。職員が町内会の役員を引き受け、災害時の協力やボランティアなど地域とは良好な関係を築いている。ロビーから、遠くに美唄炭鉱の山々を望み、向かいの公園には小動物も顔を出す自然豊かな風景の中、バイオリン演奏やカラオケ、舞踏などのボランティアが来訪し、地域住民や家族と一緒に楽しむ機会を多く持てるよう取り組んでおり、利用者の精神が安定するなどの効果も見受けられる。近くの養護学校や高等学校との交流や職場実習を受け入れており、将来の介護士を育てる環境の活用場として開かれている。更に事業所では、地域住民が気軽に立ち寄れる場所作りも考えており、相互の交流を深めながら地域のグループホームとして活動している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			☐	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			☐	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		☐	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

平成26年度 社会福祉法人 北海道社会福祉協議会

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示し常にケアに結びつくようにしている	利用者本位の環境を考慮した独自の経営理念とケア理念は、実際の業務の活動指針として、職員全員で共有し、実践に努めている。事業所の出入り口とユニット内の要所に掲示し、家族や外部の人達にも見えるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方との交流の機会増加を期待し挨拶を基本に交流している	職員が町内会の役員を引き受けており、地域の清掃活動や花壇整備をしている。住民を事業所の行事に招待し、ボランティアとしての協力も得ている。また近隣の学生の来訪もあり、養護学校に行事案内を行うなど、相互の交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の代表を交え運営推進委員会を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	連絡会議を通して運営推進委員会の内容を各ユニットに伝えている	年6回、元町内会会長や地域住民、行政や家族を委員に迎えて開催している。事業所の現状や防災、事故や外部評価について報告している。各種情報交換も行い、協力関係を築きながら意見などを運営に反映している。また介護保険改正なども説明し、ともに学ぶ時間を設けている。各委員に議事録を配布している。	運営推進会議の内容は、施設長便りで家族に概略を報告しているが、家族の事業所運営の理解と参加協力が欠かせないので、全家族に議事録を配布したり、家族が分かり易い場所に掲示する取り組みを期待する。また委員の参加の拡大に向けて、町内会長や役員などへの働きかけも期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問で担当部署と連携を密にしている	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席し、事業所の実情を理解してもらっている。行政の担当部署には積極的に出向き、相談し助言などを得て協働を図っている。研修や利用者の待機情報も共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	連絡会議や日々の送りに於いて常に身体拘束について話し合いを持っている	身体拘束に関する外部の研修会に参加し、職員と情報を共有している。玄関は、防犯上の理由で夜間は施錠している。職員全員で身体及び言葉の拘束が無いケアを実践している。体位保持が困難な利用者もできる範囲で車椅子に移乗し、居間で過ごせるように対応を工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアマネが研修に参加し内容をスタッフに伝えている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協より成年後見制度担当者を招き講習会を行った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い理解してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の希望を聞き話し合いの機会を設けている	家族の来訪の際には利用者の様子を伝えて意向を伺うようにしている。意見や苦情が出された場合は速やかに対応し、運営に反映している。また家族アンケートを実施して、家族が意見を言い易い体制作りに取り組んでいる。	施設長便りを発行し、事業所全般の様子を詳しく報告しているが、さらに、利用者一人ひとりの状況など個別の報告を期待する。また利用者、家族と取り交わしている重要事項説明書に外部相談窓口の情報を盛り込むことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡会議を開き話し合いの機会を設けている	職員は会議や日常業務の中で、意見や提案を積極的に発言している。試験的に食材配達を使うなど、職員の提案を受けて検討し、運営に反映させている。また施設長が個人面談を行い、職員の意見を吸収している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員相互の資質能力に応じた対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修への参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入り他施設とも情報交換を行っている		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を通じて利用者のニーズを知るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来訪時近況報告を行っており電話なども利用している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、カウンセリングを行いサービスが適当かづか見極めアドバイスをしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やリクレーションを一緒に行うことで関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や電話を通じて本人の状況を報告相談し共に支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容理容室などに外出して頂く事や知人や町内の方の面会の場を提供している	地域からの利用者が多く友人もよく訪ねて来ており、ゆっくりと寛げるロビーで歓談している。通い慣れた商店や美容室へ職員が同行している。また、地域の理容室が利用できるように訪問理美容を依頼している。できるだけ今までの関わりが途絶え無いように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し食卓の席を決めたりソファを集いの場にしていただいております。レクリエーション等も一緒に行うようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や電話を通し家族の相談に応じるなど関係継続を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からもこれまでの本人の暮らしや様子を聞き暮らしがより良いものになるよう意見交換をしている	職員は、日々の関わりから選択できるような問いかけをしたりして、本人の意向を聞き取ることに心がけている。家族からも情報を得て、表情や仕草などに注意して思いや意向を理解しようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から話を聞きプラン反映に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントシートを活用し把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の送り時の話し合いモニタリングと面会時の家族の希望でプランに反映させている	利用者や家族から要望を聞き取り、日々の記録や職員の気づきを取り入れながら介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎のアセスメントを経て情報を蓄積しながら計画を評価し、状態に変化がみられる時には随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項を記録しプランに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応や本人の状況に応じた補助具を検討したりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れをして、地域の方と暮らしを充実させている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じて、かかりつけ医を決めている又往診の利用で医師と介護者の情報の共有を計っている	かかりつけ医は本人・家族の希望に添うようにしている。基本的に受診は家族が同行し、本人の状態を知らせるメモを渡して、医療機関に情報を伝えている。往診は隔週で協力医療機関が行い、週2回非常勤看護師が健康状態などを確認している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師、訪問看護師に状況を伝え相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書の利用や本人の本人の状態を電話を使い病院と情報の共有を計っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より家族に重度化した場合の相談をしており理解してもらっている	利用契約時に本人や家族に対し、重度化や終末期における対応を説明している。状態変化に応じて、家族と医師を交えて今後の対応について話し合う場を設けている。重度化した場合は訪問診療に切り替えて支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者急変事故などについては迅速かつ効果的対応が素直に出来るように協議訓練を重ねている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に地域の協力が得られるように電話番号、住所を周知掲示している	消防署や地域住民との連携で協力体制を築き、年2回回間を想定した総合訓練を実施している。避難口が玄関も含めて5ヶ所あり、日頃より避難方法を確認している。また災害に備えて備蓄食材や発電機、ポータブルストーブなどを用意している。電気系統の設備点検を毎月実施し、安全な環境に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時にノック、本人が不快にならないような言葉使いに注意している	利用者に対しては、人格を尊重したケアを心がけ、言葉遣いや対応に注意している。排泄や入浴介助では、不安感や羞恥心に配慮している。個人記録の保管場所を特定し、適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや質問の仕方を考慮し、自己選択と自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその時の体調を考え無理とならないように声掛けをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き促し声掛けしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ食器片づけなど一緒に行っているほかメニューの希望を聞いている	献立に利用者の好みを取り入れ、体調や食事のとり方を考慮して刻みやお粥など個別の食形態に配慮している。また一緒に食べる楽しみだけでなく、食材の用意や準備などの作る楽しみも工夫し、皆で楽しめる支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に応じた量や大きさなどを工夫し飲み物も飽きないように種類を変えたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の促し、見守りで洗浄してもらっている、必要な方には昼食後のうがいなどの促して行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が気にされぬよう工夫し、パットの交換や排泄を促し、定時の誘導を行っている	個別に排泄リズムを把握して定時誘導を行い、利用者の体調などを考慮し対応している。衛生用品は、利用者の状況や時間により使用方法を考えながら、できる限りトイレで自然な排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取と運動を促しスムーズに排便できるようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望の時間、希望の日を聞き配慮している、入浴を嫌う方にも声がけに工夫し入浴を楽しめるようにしている	入浴は3日に1回午後の時間で支援している。基本的に同性介助としている。入浴を楽しめるように入浴剤を入れたり、入浴後の水分補給も工夫している。安全面を考慮し、手摺りの増設を予定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力、体調に合わせ休息できるよう気配り声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋を利用し理解している、病状の変化の確認に努め必要に応じ介護師、病院に連絡の上、相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ること、得意な事を考慮し作業やレクレーションを行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮し買い物、散歩、ドライブなどに出かけている	食材の買い物や利用者の買い物にも希望を聞き、出かけている。また、近隣の公園の散歩や日光浴、菜園の手入れなどを行ったり、恒例の焼肉会などで利用者の気分転換の機会を作っている。ロビーから外庭に出られるようスロープが設置されており、利用者の気分転換の場となるよう工夫されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力と個人の現能力に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話出来る環境で、書いた手紙の投函等支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーでCDをかけ音楽を流し聞いたり歌ったりしてもらっている。植木などを置き手入れや眺めてもらっている	建物中央にロビーがあり、一年中太陽が降り注ぐ広々とした空間が造られている。椅子やソファ、本棚や鉢物が置かれてあり、多目的に使用されている。左右対称にユニットがあり、食堂兼リビングには畳スペースが設けられている。対面型の台所は家庭らしさを感じさせる作りとなっている。また、廊下や浴室周りの空間も広く、ゆとりある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファをセットしTVを見たり会話のできる環境を作り食卓などは相性を考慮し談話が出来るようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具、身の回り品を使用してもらい仏壇や家族、ペットの写真を置き居心地良く過ごせる工夫をしている	居室には、備え付けのベッドやテレビ、冷蔵庫が設置されている。収納庫も大きく、身の回りの物品が十分に整理できる。自宅で使い慣れた筆筒や椅子、鏡台などが持ち込まれ、壁や出窓には家族写真などが飾られ、利用者が和むことができ、安心して過ごせる配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや食堂に大きな付ける自室に名前を付けるなど混乱をしないようにしている		